

# あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会

会長 竹之下 洲一

編集者 広報部 玉利 良一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553

## 越前(重富) 島津家墓所と関連史跡を訪ねる

恒吉一洋

令和2年3月10日に県内4市1町に残る「鹿児島島津家墓所」が国史跡に指定されました。始良市にある「越前(重富)島津家墓所」もその中の一つであり、それを記念して当墓所と関連史跡を訪ねる史跡めぐりを実施しました。

越前島津家は、島津家初代忠久の二男忠綱が承久3年(1221)に越前国(現福井県東部)に守護代として着任した時から始まります。2代目からは播磨国(現兵庫県南西部)に移り有力な国人として活躍していましたが、15代忠長の戦死(1524)により家系はいったん途絶えました。

それから100年以上を経た寛文年間(1661~1673)に、家名の復興を図るため子孫が大隅国・鹿屋まで来ましたが、目的を果たせず病没しました。そして、携えていた系図や諸文書等は新城島津家から垂水島津家を経て島津本家に移りました。



別府助順墓(奥)



元文2年(1737)島津家22代継豊は、弟の忠紀にその名跡を継がせると、帖佐郷の4村と吉田郷の1村を領地として与え、越前(重富)島津家を復興させました。

越前(重富)島津家の菩提寺であった紹隆寺墓地には、20代忠教(久光・墓は鹿児島市福昌寺墓地にある)を

除く16代から23代までの当主墓とその妻及び家族の墓、そしてそれらを取り巻く多くの燈籠と供養碑など全121基の石造物があります。

気品のある宝篋印塔も多く、広大な墓地に整然と並ぶ石塔群に想いを馳せ、参加者の中から思わず感嘆の声が漏れ聞こえてくる史跡めぐりとなりました。

## 興国寺墓地を訪ねて

迫村あけみ

昨年11月18日、私たちは自主研修の一環として鹿児島市冷水町にある興国寺墓地を訪ねました。

太平山興国寺は、明応5年(1496)島津家第11代当主忠昌<sup>ただまさ</sup>によって、現在の稲荷町<sup>いなりちやう</sup>に建立されました。曹洞宗<sup>そうとうしゆう</sup>のお寺で、開山は福昌寺8世泰雲和尚<sup>たいうん</sup>です。永正5年(1508)忠昌が亡くなり、興国寺を忠昌公の菩提寺にするため、城山(現在の医療センター)に移されました。

その後、慶長7年(1602)に鹿児島城築城の際、当地に厩<sup>うまや</sup>を建てるため、現在地(冷水町)に再び移されました。忠昌の菩提所であると共に、薩摩藩初代藩主家久の夫人・持明院<sup>ちめいゐん</sup>の菩提所でもありました。

興国寺墓地は、山の斜面に開かれた広大な墓地で、今も鹿児島市営墓地として利用されています。古くからの墓は上部一帯にあります。相当数の墓が土砂や雑草に埋まっているようです。



文様が象られた8代久守の墓

当地には、始良市に所縁のある豊州<sup>ほうしゆう</sup>島津家の墓があります。豊州島津家初代季久<sup>すえひさ</sup>は、島津家9代当主島津忠国<sup>ただくに</sup>の命で帖佐平山氏を攻め、帖佐を領地とし、菩提寺である



墓地から望む桜島

総禅寺<sup>そうぜんじ</sup>(始良市鍋倉)に葬られました。2代から5代までは日向国飢肥<sup>おび</sup>(宮崎市日南市)に移封されましたが、島津義弘の女婿<sup>むすめむこ</sup>となった6代朝久<sup>ともひさ</sup>は帖佐に戻り、総禅寺に墓が建てられました。

今回訪れた興国寺墓地には、8代久守<sup>ひさもり</sup>・9代久邦<sup>ひさくに</sup>およびその一族の墓があります。7代久賀<sup>ひさよし</sup>の墓もかつては当墓地にありましたが、今は福昌寺に移されています。豊州島津家は久賀以降、薩摩川内市祁答院町黒木に領地を与えられ、薩摩藩の家老を務めた家柄でした。

豊州島津家の墓も草に覆われたり倒壊したりしていましたが、少しでもという思いで、草やコケを私たちの手で除去してきました。

10代久兵以降は南林寺墓地に葬られていましたが、大正8年(1919)の市街地整備による墓地廃止の決定で、総禅寺墓地に移されています。

当墓地には、他に汾陽<sup>かのみなみりしん</sup>理心一族・伊地知<sup>すえよし</sup>季安一族・高崎<sup>まさかぜ</sup>正風一族など歴史上興味深い人物たちも数多く眠っています。

## 指定文化財に関するトイレ調査

松下澄行

始良市には、指定文化財が各地に点在しています。史跡巡りの時に役立てるよう、周辺にあるトイレの実態を調査しました。その結果、史跡の近くにあるトイレは数少なく、不便さを感じました。特に山手にある史跡の近くにはほとんどなく、あっても数百mから1kmぐらい離れているものが多数でした。

町中にある有名史跡の数か所には敷地内にトイレが設置されていましたが、多くの場所では少し離れた場所にありました。

トイレの様式は、汲取り式一穴から男女別々の水洗式、最新式のオストメイト対応のものまで様々でした。

誰もが利用できる公衆トイレは、私たちにとっては非常に大切なものです。自分が使用した後はきれいにして次の使用者に気持ち良く使ってもらえるようにしたいものです。

史跡巡りなどの役に立つよう、今後も継続して調査したいと思います。



## 消えゆく伝統行事

濱口純則

本年1月13日、出村卓三先生による郷土の伝統行事についての講演を受講して感じたことをお伝えします。



私も以前(昭和50年代)は近くの平松地区の城下や五反田、三反田の田圃や河川敷で行っていた“鬼火焚”<sup>おにびたき</sup>を見物に行くのを楽しみにしていました。3つの町が合併し始良市となり、少子高齢化・都市化の進行によって、地域の伝統的な催し物も少なくなっていくのは仕方ないこととっていました。

ところが、始良市の山田校区コミュニティ協議会が主体となって昨年11月頃から協議立案した「始良市山田校区鬼火焚」が本年1月9日に開催されました。地域の人々に加え市長も参加され、<sup>しも</sup>下<sup>みょう</sup>名地区に伝わる棒踊りも披露されて、当日は400人以上の参加者がありました。大いに盛り上がったと聞いたのは、残念ながら後の祭りでしたので、来年は忘れずに参加しようと思っています。今から楽しみです。

伝統行事を絶やさないように、皆さんも積極的にご参加いただきたいと思います。

## 加治木郷土館 秋季企画展を終えて

文化財係 池田 亘

10月5日～11月30日に加治木郷土館で秋季企画展「<sup>いもじ</sup>鑄物師森山家 明治維新を支えた技術」を開催しました。

森山家は江戸時代から明治時代にかけて鑄物業で繁栄した豪商で、幕末には礮の集成館で大砲の<sup>ちゅうぞう</sup>鑄造にも関わりました。普段は、加治木町朝日町にある森山家住宅土蔵内で加治木出身の鑄物師「川畑<sup>くわはた</sup>道仁」が作った鉄瓶などの伝世品や敷地内の発掘調査で得られた出土品の展示を行っています。今回は、加治木郷土館企画展として展示を行うことで鑄物業が盛んであった加治木の歴史の一端を紹介しました。

市内外から多くの方に来館していただき、実際に森山家住宅を見学したいという意見がありました。今後も多くの方に始良市の文化財について興味を持ってもらえるような展示を企画していきたいと考えています。



始良歴史ボランティア協会では、森山家住宅をはじめ、市内各所の史跡などをご案内させていただきますので、ご希望の方はお気軽にお問合せください。

## 始良歴史ボランティア協会の活動紹介

竹之下 洲一

先日1月16日、始良伊佐地区生涯学習推進大会で始良歴史ボランティア協会の日頃の活動について発表する機会をいただきました。私たちの活動内容について紹介してみたいと思います。



始良市には、現在指定・登録文化財が県内最多の204件あります。その史跡などを皆さんに紹介し、その保全に取り組むことが私たちの活動の中心になります。

年間を通じ計画する史跡めぐりや各方面から依頼のある史跡めぐりなどでガイドを務めたり、また、小・中学生の郷土史学習などのお手伝いをしています。そのために事前に現地を实际歩き、資料を入念に調べたりします。

さらに文化財の保全活動の面でも、年に2回・約80ヶ所の市内史跡の点検や除草なども私達ができる範囲内で取り組んでいます。

このような諸活動を通して、会員相互の親睦や交流を図り、充実した日々を送れることを期待するのは勿論、地域の方々に始良市の文化財を知ってもらって誇りと自信を持っていただく、その活動につなげていけたらと願っています。